

令和4年12月吉日

都民ファーストの会 御中

日本若者協議会ジェンダー政策委員会

## プールの授業に関する提言

日本若者協議会は、若者の声を政府や社会に届ける「窓口」として、若者政策の立案、各政党との政策協議、政策提言を行っている若者団体です。ジェンダー政策委員会では、これまで痴漢対策の強化や学校での生理休暇の取得などを求めてきました。

2021年に日本若者協議会と#みんなの生理が合同で実施した、小学校、中学校、高校での生理休暇導入についてのアンケートでも、生理中の体育やプールの扱いに関する不満の声が多く届きました。

現状、学校には生理に対する統一したガイドラインがないため、体育の授業での生理のルールは先生によってバラバラとなっており、生理でもプールに参加しなければいけない学校や、生理でプールを欠席した際は減点となる学校もあります。実際、日本若者協議会のもとにはそうした声が届いています。

---

### <体験談>

東京都立高校1年生 女性

水泳の授業について学校から配られたプリントで、水泳の授業を見学や欠席した場合（コロナウイルスでの出席停止を含む）、1回につき200メートルを泳ぐ補講と書いてありました。放課後に「補講」として、200メートルを泳がないといけません。それを拒否すれば評価は「1」になると明記してあります。

また、生理のため入れないことを女性の教師に伝えると、男子も同じ時間に泳ぐのに「量が少ないなら水の中では止まるから体が大丈夫なら入れないか」と言われました。

---

その他、アンケートでも同様の回答が見られます。

- ・休みを授業評価に反映されて評定が下がった経験があります。

・生理中を理由に授業を休むことはできたけど、水泳をしないことによってレポートを書いて水泳をしたときの評価の半分になった。

・後日放課後などにより多く泳がされて、身体に負担はあまりなかったが、部活や塾を休まなければならなかった。

東京新聞の取材によると、東京都教育委員会は授業を休んだからと言って、一律に何百メートル泳がせるような課題を課す指導はしないようにと、校長連絡会などで伝えているといいますが、現状は複数校で実施されています。

同様に、NHKの記事でも、東京都教育委員会の担当者は、「プール授業は、月経中であれば見学させる方針だと聞いています。月経中で見学した分の実技補講を行うかどうかは、子どもたちの状況に合わせて教員が必要と判断したのであれば、都から意見することはありません。また、**水泳の時間に泳げなかったからといって、その学期の体育の成績が下がるということはありません**」と答えています。

しかし、実態としては、重い補講や成績の引き下げが行われています。

そのため、以下を要望します。

### **①生理に対するガイドラインの作成と教育委員会の決定の遵守**

日本学校保健会の『学校における水泳プールの保健衛生管理（平成28年改訂）』では、

「月経中のときは、清潔を保つなど衛生面に十分注意し、痛みや出血量が多い重い月経（月経困難症）の時は水泳を休ませることも考慮すべき」と書かれており、自治体によっては、これを指針として指導するように通達しています。

しかし現状は、生理の扱いや指導に関しては教員の主観が影響している事も多く、生徒が振り回されているため、東京都としての生理に関するガイドラインの作成を求めます。

また教育委員会は「授業や補講のあり方について、『授業を休んだからといって、一律に何百メートルを泳がせるような課題を課す指導はしないように』、と校長連絡会などで伝えている」としているのに、現状補講が実施されている学校があることも踏まえて、教員の裁量で決められる点は尊重しつつ、生徒の健康を守るために、教育委員会の決定は現場で遵守す

ることを求めます。

## **②授業の内容やルールへの生徒の意見の反映**

思春期に、体形が見える姿で、男女一緒にプールに入ることには抵抗を感じる生徒がいます。熊本日日新聞の報道では、「男子が女子に性的な写真を送ったり、男子がいやらしい写真をタブレットでクラスみんなに共有したりといった嫌がらせが起きている」そうです。

そのため、体形や体毛といった身体的特徴、日焼け予防、性別違和による体の性的特徴などの生徒の負担の軽減などを目的としてラッシュガードや体形のわかりにくい水着を、診断書の提出などがなくても気軽に着用できるようにすること。性別違和の生徒への負担軽減のため、個室の更衣室を導入すること。異性の視線が嫌な生徒や盗撮の予防などを目的として対応が可能な学校では男女別時間のプール授業を実施するなど、授業の内容やルールに生徒の意見を反映することを求めます。

## **③水泳の選択制の導入**

学習指導要領は、高校の保健体育で水泳を必修としておらず、「水泳」「器械運動」「陸上競技」などの領域から各校の判断で選択でき、教育内容を決めています。ただ実際のところは、多くの学校で、全員参加&男女混同で実施されています。

私立高校には水泳の授業がない学校もありますが、都立高校では水泳がない・選択制の学校は非常に少なく、金銭的な事情や学びたいことなどがある場合、水泳の有無が進路選択を制限してしまっています。

また、生理以外にも体調不良や病気、トランスジェンダー、男女混同で嫌など様々な理由で水泳が辛いという生徒も存在します。

すべての生徒に有意義な学びの時間を提供するため、都立高校においては水泳の授業を全員参加型から選択制にすることを求めます。

<参考>

[学校での「生理休暇」についてのアンケート結果（日本若者協議会・#みんなの生理）](#)

以上